

## 令和5年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立矢口中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・ 大部分の生徒が授業に対して積極的に取り組んでいる。ALT との会話練習やスピーチの作成などに対しても意欲的であり、早い時期から英語活動に触れてきた成果が表れているといっている。話す活動への積極性に比例して、聞く力も年々向上している。
- ・ 基礎的な分野での知識が定着しつつある。単語、短文などの反復を重ねることで少しずつ運用できる言語材料が増えてきた。今後も単語テストや教科書準拠のワークなどを用い、理解を深めていく。

#### (2) 課題

- ・ まとまった英文を読むことに慣れていない生徒が多い。教科書の構成が会話ベースになっているため、自分で手軽に読むことができるまとまった英文に出会っていないことが要因と考えられる。学んだ英文法を用いて、長文を読み、解析していくことが必要である。
- ・ 「なぜ英語を学ぶ必要があるのか」という子どもの疑問に対して、教える側が明確な答えをもちながら、新しい言語を学ぶことで自己の世界が広がる楽しさを受容的な雰囲気の中で伝えていくことで主体的な学びの姿勢が生まれてくると考える。あたたかい雰囲気の中で活発な会話が生まれていくよう支援したい。
- ・ 書く力向上のため、さらに文表現を豊かにする熟語や助動詞の効果的な使い方について学ぶ必要がある。短文から、複文へと発展させることや場面に合わせた表現を用いていくことなど練習の量だけでなく質の向上が必要である。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

|      | 令和5年度結果   | 令和4年度結果 | 令和3年度結果 |
|------|---|---------|---------|
| 第1学年 | 校内での正答率は8割を超えている。アルファベットの読みや書き取りは9割近い達成率であり、基礎の定着が読み取れる。また英文の読み書きも9割に達していることから「読む」「書く」の力が高いことがうかがえる。一方、日常会話の聞き取りは8割をきることもあり、耳で得た音が語句とつながらず会話場面が想像できないと推測される。英語の音に触れる場面を多く設定し、4技能の円滑なつながりを形成したい。 | /       | /       |

|      |  |  |  |
|------|--|--|--|
| 第2学年 | 校内での正答率は7割を超えている。特にリスニングの単文理解や、単語の並べ替えなどは8割を超える正答率である。基礎的問題の正答率はおおむね高く、辞書の使用が定着した成果が表れ、語彙の知識・理解についての値は8割以上の達成率であった。読むことについての正答率が若干低いため、読解力をつける必要がある。 | 校内での正答率は8割を超えている分野もある。特にアルファベットの音や平易な単語の聞き取りについては9割近くの達成率である。反面、日常会話での英語特有の言い回しなどについての細かな知識が足りない。現状を維持しながら、さらに英文法の知識を定着させていく必要がある。 |  |
| 第3学年 | 校内での正答率は7割を超えている。前年度より上がり、特に単語の並べ替えによる英作文、場面に応じて書く英作文などは目標値を大きく超えている。リスニングでの対話文の応答は目標値よりは上であるが、全体的には低いため、聞く力、さらに返答を考えるという応用力をつける必要がある。               | 校内での正答率は7割を超えている。特にリスニングでの対話の応答、場面に応じて書く英作文など、活用問題の正答率は目標値よりは上であるが、全体的には低いため、応用力をつける必要がある。   | 校内での正答率は8割を超えている。特に会話全体を聞き取ったり、簡単な作文をしたりなど、ごく基本的なやりとりの基礎は確立しており、今後は会話の細部まで聞き取ることやアルファベットの細かい音変化などを学んでいくことが必要となる。 |

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

| 知識・技能   | 思考・判断・表現   | 主体的に学習に取り組む態度  |
|---|--|--|
| <p>○「聞く」活動において、概要を聞き取ることはできるが、類似する単語の聞き分けができていない面が見受けられる。(月や曜日など)</p> <p>○「書く」活動において、文型を正しく理解し正確な文を書くことができています。一方、単語の綴りを曖昧に記憶しているため、正確性を欠く。</p> | <p>○聞き取った会話文の文脈から状況を想像し、会話の主旨を理解することができる。経験がないことには思考が広がらないため、誤答が多い傾向が見える。</p> <p>○英文を書く力は身につけているが、自分自身の気持ちを正直に把握することにためらいが見られ表現力の向上に歯止めをかけている。</p> | <p>○参考資料等手がかりになるものがあると積極的に取り組めるが、自由記述になると消極的になる生徒が多い。</p> <p>○英語を学習する意義を感じとれないので、能動的な自己表現活動を避け演習問題を好む。</p> |

② 第2学年

| 知識・技能   | 思考・判断・表現   | 主体的に学習に取り組む態度  |
|---|--|--|
| <p>○「聞く」活動に関しては基礎的語彙が増えてきていることから、単純な質問の概要を捉え、単語で答えることができるようになってきている。</p> <p>「書く」活動になると、発音とつづりが関連付けられていないため、正確な文を書けないことが多い。間違ふことを恐れて取り組むことにちゅうちょする生徒も増えてきた。</p> <p>○「読む」活動については、新出文法が多いため、まとまった文章を読む機会を確保できていない。</p> | <p>○場面設定を行って「書く」活動を増やしてきた。発話に対して消極的な生徒が多く、単語を思い浮かべることができても、文章として発話することに対しては苦手意識を持つ生徒も少なくない。場面にあった会話活動を受容的な雰囲気の中で行う必要がある。</p> <p>○ALTとのやりとりができてきていることから「聞く」活動に関しては理解できている生徒が多い。</p> | <p>○英語が話せるようになりたい、上手に書けるようになりたいという意気込みが感じられる生徒は多くいるが、新しい単語や文のきまりが多すぎて整理して学習できていない。</p> <p>○振り返りを実施すると、自分の弱点を理解し、そのためにどのような努力が必要か考えることのできる生徒が少ない。また、なにがわからないのかわからないと自信を無くしている生徒もいる。</p> |

### ③ 第3学年

| 知識・技能   | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度  |
|---|---|--|
| <p>○聞き取る力においては、場面や状況に応じて適切に返答する力はあるが、「どこで」といった細かい情報を伝える力は脆弱である。</p> <p>○長文や、様々な文章の読み取りにおいては、内容に合った判断はできるものの、概要をとらえること、資料を読み取り理解することはまだ弱い。</p> | <p>○英作文において、正確にまとまった内容を記述する力はあるが、相手に伝わるように具体的な説明、理由を述べることに乏しさを感じる。</p> <p>○長文において、必要な情報を読みとって意見を述べることに関しては問題ないが、内容を理解し、その要点をとらえることに苦手意識がある。</p> | <p>○話す活動においては、ALTと積極的に会話し、理解したいという気持ちが強く、また、協同作業による取り組みを行っていることから、話すことに対しての消極性は見られない。</p> <p>○振り返りを行うと、弱点を理解し自分の間違いやすい傾向を理解している生徒が多い。また次への取り組みに対する対応を考えられる生徒も多い。反面、正確さを求めるあまり、積極的に活動に取り組むことに躊躇する気持ちが見られることもある。</p> |

## 3 授業改善のポイント（観点別）

### (1) 第1学年

| 知識・技能  | 思考・判断・表現                                     | 主体的に学習に取り組む態度                                 |
|--|--|---|
| <p>○ALTを活用し自然な速度の英語に触れる機会を多く設けると共に、情報を正しく聞</p> | <p>○正確な文型を定着させ、考えたことや思ったことが自然に英語で表現できるよう</p> | <p>○スピーチや発表の場をとおり、能動的に自己表現を行い、自分の考えや気持ちが伝</p> |

|   |   |  |
|---|---|--|
| <p>き取る演習問題に取り組む。</p> <p>○ディクテーション活動をとし正確に書きとる習慣を定着させる。</p> <p>○単語テスト、スペリングコンテストの実施。</p> | <p>に会話場面を多く設ける。</p> <p>○教材に限らず、世界に関わる多くの素材に触れ興味や知識の幅を広げる。</p> <p>○教科書や演習問題の主語を自分に置きかえて、オリジナルの文章を考え相手に伝える力を養う。</p> | <p>わる喜びを多く得る。</p> <p>○協同学習を継続し、周囲から刺激を得て思考する姿勢を育てる。</p> <p>○英語という言語の背景にある文化や慣習を学び、世界への興味関心を引き出す。</p> |
|---|---|--|

## (2) 第2学年

| 知識・技能   | 思考・判断・表現   | 主体的に学習に取り組む態度   |
|---|--|---|
| <p>○授業内での英語使用場面を増やし、語彙の増強及び文のきまりを実際の会話内で使えるように反復練習、および家庭学習につなげられる活動を行っていく。</p> <p>○「読む」活動に対して苦手意識をもたないように、教科書の音読や短い会話文の理解などを盛り込み、まとまった英文に触れる機会を授業に組み込む。</p> | <p>○特に「話す」活動に関しては、授業内で間違えても大丈夫だという受容的な雰囲気づくりをし、なるべく主語と動詞のある文で答えるように促していく。ALTとの授業内で個別にやりとりをする機会をつくっていく。</p> <p>○普段の授業で、ペアワーク、英作文を頻繁に行い、お互いの情報を伝え、理解する活動を増やしていく。</p> | <p>○新しい事項を学んだあとの振り返りを丁寧に行い、分かったこと、できるようになったことなどのCAN-DOリストをつくる。苦手な部分でも、少しずつ取り組めるように帯活動などに取り入れていく。</p> <p>○英語に限らず、いろいろなことに興味・関心を持たせ、英語で表現できる発想力をもたせていく。</p> |

## (3) 第3学年

| 知識・技能  | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度   |
|--|---|---|
| <p>○単語や熟語、文法を増やし、自由に使えるように反復練習をすることで記憶の定着を図る。</p> <p>○ICTの観点からタブレットにおける英語コンテンツの使用を促す。自然な英語に触れると共に、様々な内容に関する語彙を増やす。</p> | <p>○長文に触れる機会を増やす。特に時事問題、SDGs、環境問題、人権問題など多岐に渡った文章に触れさせ、思考の幅を広げる。</p> <p>○さまざまな題材の英作文に取り組む。文法習得とともに、自分の思いを伝え、状況に対応する力を養う。</p> | <p>○ペア、グループでの活動を通し、日常的に使用する言語としての理解を深めていく。</p> <p>○さまざまな題材に対する興味を持たせ、それを表現する発想力を養い、使用することによって実践的な授業展開を行う。</p> |